

ドメイン移行手順について

対象バージョン: SSC 3.x

概要

SigmaSystemCenter の管理サーバ、および管理対象マシンのドメイン移行の影響について、SigmaSystemCenter のコンポーネントごとに注意する点をまとめています。その他のコンポーネントに関しましては、別途ご確認ください。

移行手順

◆ SystemProvisioning

SystemProvisioning のサービスの停止や、ssc コマンド、pvmutil コマンドの実行などの操作は、管理サーバの Administrators 権限を持つユーザで実行できます。ドメインのユーザが管理サーバの Administrators 権限を有していることを確認してください。

管理対象マシンをドメイン移行する場合は、グループプロパティ設定でドメイン設定の変更を行ってください。本設定は、イメージ配信しているときのみ有効です。

ドメイン移行後にデータベースのアクセス権限を確認する必要があります。

なお、本手順では使用するインスタンス名に、「SSCCMDB」(既定値) を記載しています。既定値から変更している場合は、インスタンス名を置き換えて実施してください。

ドメインアカウントでログオンし、下記のコマンドで、ドメインアカウントが表示されるか確認してください。

```
sqlcmd -E -S .¥SSCCMDB
1> select name from sys.syslogins
2> go
```

上記コマンドを実行すると、アクセス可能なアカウントが表示されます。

ドメインアカウントが含まれていない場合は、下記の手順でドメインアカウントを追加してください。

• SQL Server 2008 R2 の場合

ドメインアカウントでログオンした状態で、下記のコマンドを実行してください。

```
sqlcmd -E -S .¥SSCCMDB
1> EXEC master..sp_addsrvrolemember @loginame = N'ドメイン名¥アカウント名', @rolename = N'sysadmin'
2> go
```

- SQL Server 2012、SQL Server 2014 の場合
SQL Server インスタンスをインストールしたユーザアカウントでログオンし、下記のコマンドを実行してください。

```
sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB
1> CREATE LOGIN [ドメイン名¥アカウント名] FROM WINDOWS
2> GO

1> ALTER SERVER ROLE [sysadmin] ADD MEMBER [ドメイン名¥アカウント名]
2> GO
```

ドメインアカウントでログオンし、下記のコマンドで、ドメインアカウントが表示されることを確認してください。

```
sqlcmd -E -S .¥SSCCMDB
1> select name from sys.syslogins
2> go
```

また、DHCP サーバを使用する運用を行う場合は、DHCP サーバが "Active Directory" に承認されていることを確認してください。

◆ DeploymentManager

- DPM サーバ
ドメイン移行後にデータベースのアクセス権限を確認する必要があります。
なお、本手順では使用するインスタンス名に、「DPMDBI」(既定値) を記載しています。既定値から変更している場合は、インスタンス名を置き換えて実施してください。
SigmaSystemCenter 3.1 以前は、「DPMDBI」(固定値) です。

ドメインアカウントでログオンし、下記のコマンドで、ドメインアカウントが表示されるか確認してください。

```
sqlcmd -E -S .¥DPMDBI
1> select name from sys.syslogins
2> go
```

上記のコマンドを実行すると、アクセス可能なアカウントが表示されます。
ドメインアカウントが含まれていない場合は、下記の手順でドメインアカウントを追加してください。

- SQL Server 2008 R2 の場合

ドメインアカウントでログインした状態で、下記のコマンドを実行してください。

```
sqlcmd -E -S .¥DPMDBI
1> EXEC master..sp_addsrvrolemember @loginame = N'ドメ
イン名¥アカウント名', @rolename = N'sysadmin'
2> go
```

- SQL Server 2012、SQL Server 2014 の場合

SQL Server インスタンスをインストールしたユーザアカウントでログオンし、下記を実行してください。

```
sqlcmd -E -S (local)¥DPMDBI
1> CREATE LOGIN [ドメイン名¥アカウント名] FROM WINDOWS
2> GO

1> ALTER SERVER ROLE [sysadmin] ADD MEMBER [ドメイン名¥ア
カウント名]
2> GO
```

ドメインアカウントでログオンし、下記のコマンドで、ドメインアカウントが表示されることを確認してください。

```
sqlcmd -E -S .¥DPMDBI
1> select name from sys.syslogins
2> go
```

また、DHCP サーバを使用する運用を行う場合は、DHCP サーバが "Active Directory" に承認されていることを確認してください。

- 管理対象マシン

ドメイン移行後にバックアップイメージを再取得する必要があります。

- DPM サーバ、管理対象マシン共通

OS が Windows Vista / Windows 7 / Windows 8 / Windows 8.1 / Windows 10 / Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 / Windows Server 2012 / Windows Server 2012 R2 の場合、ドメインプロファイルで DPM が使用するポートを開放する必要があります。

上記の場合、Windows ファイアウォールのドメインプロファイルで DPM が使用するポートを開放してください。詳細は、「Deployment Manager リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編」の「付録 D ネットワークポートとプロトコル一覧」を参照してください。手順内では、管理対象マシンの場合を例に記載していますが、DPM サーバもポートを開放する必要がありますので、

「DeploymentManager リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編」に記載のポート一覧を参考に設定してください。

◆ SystemMonitor 性能監視

- 管理サーバ

SystemMonitor 性能監視の性能監視サービスの停止や管理コンソールの実行などの操作は、管理サーバの Administrator 権限を持つユーザで実行できます。ドメインのユーザが管理サーバの Administrator 権限を有していることを確認してください。

ドメイン移行後にデータベースのアクセス権限を確認する必要があります。

なお、本手順では使用するインスタンス名に、「SSCCMDB」(既定値) を記載しています。既定値から変更している場合は、インスタンス名を置き換えて実施してください。

ドメインアカウントでログオンし、下記のコマンドで、ドメインアカウントが表示されるか確認してください。

```
sqlcmd -E -S .¥SSCCMDB
1> select name from sys.syslogins
2> go
```

上記コマンドを実行すると、アクセス可能なアカウントが表示されます。

ドメインアカウントが含まれていない場合は、下記の手順でドメインアカウントを追加してください。

- SQL Server 2008 R2 の場合

ドメインアカウントでログオンした状態で、下記のコマンドを実行してください。

```
sqlcmd -E -S .¥SSCCMDB
1> EXEC master..sp_addsrvrolemember @loginame = N'ドメイン名¥アカウント名', @rolename = N'sysadmin'
2> go
```

- SQL Server 2012、SQL Server 2014 の場合

SQL Server インスタンスをインストールしたユーザアカウントでログオンし、下記のコマンドを実行してください。

```
sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB
1> CREATE LOGIN [ドメイン名¥アカウント名] FROM WINDOWS
2> GO

1> ALTER SERVER ROLE [sysadmin] ADD MEMBER [ドメイン名¥アカウント名]
2> GO
```

ドメインアカウントでログオンし、下記のコマンドで、ドメインアカウントが表示されることを確認してください。

```
sqlcmd -E -S .\SSCCMDB
1> select name from sys.syslogins
2> go
```

- 管理対象マシン

SystemMonitor 性能監視に設定されている監視対象マシンへのアクセスアカウントが、監視対象マシンのローカルな Administrator、もしくは Performance Monitor Users 権限を有している必要があります。監視対象マシンへのアクセスアカウントが変更された場合は、下記設定が必要です。

- 管理サーバ

SystemMonitor 性能監視の設定をしている監視対象マシンへのアクセスアカウントを変更します。

- 監視対象マシン

アカウントへのローカル Administrator、もしくは Performance Monitor Users 権限を追加します。

◆ ESMPRO/ServerManager

注:

- ・ インストール時に指定した ESMPRO ユーザグループが "Administrators" の場合、設定の変更は必要ありません。
 - ・ SigmaSystemCenter 3.4 以降 (ESMPRO/ServerManager Ver.6 以降) では、ESMPRO ユーザグループは "Administrators" 固定になります (インストール時の指定はできません)。
-

インストール時に指定した ESMPRO ユーザグループが "Administrators" 以外のローカルグループの場合、移行後にログインするドメインユーザを ESMPRO ユーザグループに追加します。

ドメインユーザを ESMPRO ユーザグループに追加できない場合は、再インストールが必要になります。

インストール時に指定した ESMPRO ユーザグループは、下記レジストリで確認することができます。

注: レジストリ値の変更は行わないでください。

レジストリキー:

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥NVBASE
(x86OS の場合は¥Wow6432Node の部分を除外)

名前: LocalGroup

型 : REG_SZ

値 : インストール時に指定した ESMPRO ユーザグループ名
(既定値でインストールしている場合は "Administrators" となります。)

◆ ESMPRO/ServerAgent (Windows 版のみ)

ESMPRO/ServerAgent のコントロールパネル、ESRAS ユーティリティなどを使用する場合は、Administrator 権限が必要になります。

ドメインを変更される装置上の、ESMPRO/ServerAgent を使用するログインユーザには、必ず Administrator 権限を設定して作業してください。

注意事項

ドメイン移行を行った後、SigmaSystemCenter Web コンソールが正しく表示できない場合があります。

これは、ASP.NET 環境で、IIS のマッピングの不具合が発生することに起因し、以下のよう
にマイクロソフトよりトラブル報告がされています。

◆ 参考 URL

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc737943.aspx>

その場合は、下記手順で復旧作業を行ってください。

◆ 手順

1. IIS の仮想ディレクトリの上の ASPNET アカウントに、読み取り、実行のアクセス許可を追加する。

詳細手順については、参考 URL を参照してください。

対象のフォルダは、以下の通りです。

%SystemProvisioning Install Directory%¥Provisioning

注: %SystemProvisioning Install Directory%の既定値は (%Program Files%¥NEC¥PVM) です。

2. IIS と ASP.NET のマッピングを修復する。

aspnet_regiis.exe -i コマンドで、ASP.NET の上書きインストールが行われます。

上記手順で復旧しなかった場合、IIS、ASP.NET、SystemProvisioning の再インストールを実施いただく必要があります。

IIS、ASP.NET、SystemProvisioning のアンインストール後、以下の順番で再インストールを行ってください。

1. IIS
2. ASP.NET
3. SystemProvisioning

SystemProvisioning の再インストールにあたっては、事前にバックアップを行い、再インストール後にリストアしてください。バックアップ / リストアの手順については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」を参照してください。

作成日: 2012/09/28
最終更新日: 2016/05/11